

非核の政府を求める 石川の会ニュース

〒920・0848金沢市京町二八の八
石川民医連労働組合賃付 8076・251・0014
郵便振替 0076・0・15689

「普天間基地の無条件撤去と

辺野古新基地反対」

「朝日」意見広告 県内25団体賛同

真珠湾攻撃69周年

『平和を守る集い』

真珠湾攻撃69周年の12月8日、石川憲法
会議、日朝協会など5団体が主催する「平和を
守る集い」が金沢市内で開かれ、45人が参加
しました。

平和サークル「むぎわらぼうし」の代表・東
しげのさんが「平和を考え続けて24年」と題
して講演しました。

東さんは、広島・長崎の被爆の実態を描いた

朗読劇「この子たちの夏」の上演運動を契機に
同サークルを設立。「日常から平和のことを考
えることができる場所」として、24年間、毎
月1回のペースで例会を開き、300回を超
えたことなどを語りました。

そのうち石川県関係の賛同団体は21団体
と書きましたが、新たに分かった団体は次の4
団体です。

- ・金沢・河北地域労連
- ・金沢市北部革新懇
- ・済生会金沢病院労働組合
- ・健生クリニック

非核の政府を求める石川の会

2011年1月1日(土)発行

『原水協ペツトボトル募金』

役場窓口に置き15万円集まる

石川県原水協は、5年前から地方自治体に原
水爆禁止国民平和行進への協力を要請する際
に、役場の窓口や職場に「ペツトボトルで作つ
た募金箱を置かせてほしい」との一項目を加え

て、募金への協力をお願いしています。
1年目は協力していただいた地方自治体の
数も金額も、目標の半ばでした。2年目には募
金のお願いに付け加えて、募金の御礼と集まつ
た金額、届け先（日本原水協、石川県被爆者友
の会）などを報告したところ13万円が集まり
ました。3年目から定着。県を除く10市9町
のうち金沢、小松、七尾の3市以外の16自治
体（80%）で取り組まれ、昨年（2010年）
は15万円に達しています。

毎年続けることが大切

県原水協・内藤事務局長

また内藤さんは、「自治体だけではなく、原
水協関係団体や人の集まる施設に頼んで置か
せてもらつた年もあります。とにかくお願ひし
毎年続けることです」と語っています。

【※「原水協通信」12月号より紹介】

スイート大統領 核兵器の違法化に向け 禁止条約を支持

今年の原水爆禁止世界大会で採択された「各國政府への手紙」への、ドリス・ロイトハルト・イスラエル大統領からの返書が届いたそうです。重要な内容なので、その抜粋を以下の通り紹介します。

私は、市民社会による忍耐強い活動が核軍縮のもつとも重要な推進力の一つであると信じています。

核兵器が存在する限り、意図的なものであれ偶發的なものであれ、核兵器の使用の危険は残り、テロリストによる盗難や使用の危険も残ります。それ故、全ての核兵器を違法とし、究極的に廃絶するためにともに活動することは、道理と責任の問題に他なりません。イスラエルはこの目標の実現に積極的に努力しています。

2008年10月の国連事務総長の5項目提案は、核兵器の違法化に向かってどのように進むことができるかについて、「互いに強化しあうような法的文書の枠組みないし核兵器条約によって」と打ち出しています。

今年5月のNPT再検討会議でイスラエルは、核兵器は非人道的であり違法であると非難し、核兵器の使用は国際人道法の基本原則と規則とを侵害する、と宣言しました。核軍縮に関する議論の中心に人道的な視野を回復することが重要である、と思います。

ジュネーブ条約の寄託国であるイスラエルはこの点で特別の責任を認めています。NPT再検討会議の最終文書が国際人道法に言及したことは、正しい方向での重要な一步です。この地上での安全保障は、核兵器が存在し続ける限り達成することができない、というのが私の信念です。

【※「原水爆通信」12月号より紹介】

2010日本平和大会 in 佐世保 に参加して

松井和夫

今回の日本平和大会に石川県から県平和委員会と県原水協の方と非核の会の私の計3名で参加させていただきました。この大会への参加は初めてです。

12月3日午前、空路福岡入りし、バスで佐世保に向いました。午後の到着の時点では、佐世保駅裏のバス駐車場には既に、全国から現

地入りした参加者がバス車内で待機しており、連絡・承認済みとはいえ恐縮して乗車。同じ北陸・福井から陸路で現地入りしたメンバーを待つて、バスは基地調査活動に出発しました。

先ず向かったのは弓張岳展望台。佐世保港全体を見渡せ、周辺の米軍基地や自衛隊基地の位置関係を掌握するのに好都合の場所です。途中、わずか11戸建設のために28億円もかけて建てた米軍幹部用住宅の横を通り過ぎました。巨大な壁が築かれ、要塞のような高台の上にそれは建設されていて、市民に圧迫感を与えていた。弓張岳展望台からの景観はいただいたパンフレットそのものでした。重要地点は米海軍基地が占め、周辺に海上自衛隊基地、貯油所、弾薬庫が配置されていて、民間船が就航しているとはいえ、佐世保湾全体が重要な戦略基地になつているということが一目で分かります。

その他、港に隣接する巨大な船舶ドックを自分の目で確認することができました。特に佐世保重工業は、バスで横を通り過ぎるだけでその大きさが体感できました。

山から下ると今度は、乗船して佐世保湾内からの基地調査に入りました。折しも朝鮮半島の緊迫した情勢のなか、米艦船はほとんど全て現地に向かって空っぽ状態でした。海上自衛隊艦船もごく少数でした。

乗船したガイド氏の案内では、たとえ誤つて海に落としたものを拾うにしても釣りをするにしても、米軍の許可が必要な海域が設定されているので、迂闊な行動はとれないそうです。ましてや潜って魚を捕るようなことがあれば、いつ撃たれても不思議ではないことで、見かけはどうあれ「一旦緩急あれば…」のような、何事も軍事優先の危険な本性がくつきりと浮かび上がっていました。

佐世保では港湾であれ陸上施設であれ、一旦米軍の指示があると全てが米軍のために供与されることになっているというのが現実です。それが「地位」協定を根拠にしているとなると、佐世保は平和のために何ができるかを考える場所といえそうです。

また弾薬庫、貯油所、米軍基地などは一般的に記載されていないことも多くあることが分かり、さすが平和大会の資料と基地調査だと思いました。

I・オープニング集会に出席するために会場のアルカス S A S E B O 大ホールに向かいました。
（）は 2000 人収容の大ホールをはじめ、中ホール・イベントホール・3 か国同時通訳ブースのある特別会議室などを備えた西日本最大規模のコンベンション施設です。なかなかレベルの高い少年少女合唱団とよさこい踊りで

幕が開き、開会挨拶、歓迎挨拶、来賓挨拶、ビデオメッセージ、沖縄からの報告、主催者報告、国際シンポジウム報告、海外代表の紹介と挨拶などがありました。終わつたばかりの沖縄県知事選挙の報告とメッセージは熱いものがありました。

特に佐世保空襲犠牲者遺族会会长・岩村秀雄さんの挨拶と、2010 日本平和大会「主催者報告」が印象的でした。佐世保空襲については不明に恥じ入り、主催者報告は大会の開催の基調であり、感銘深いものでした。日本平和大会サイトに主催者報告がありますので是非、ご覧いただきたいと思います。これで 1 日目が終わりました。

2 日目は午前から午後にかけてシンポジウムと分科会、夕方からは全体集会Ⅱが開かれました。私は 20 分くらい歩いて分科会 6 「核の傘」から離脱し、非核日本をめざすために、に参加しました。そこは日米安保、米軍基地と「核密約」の問題と関連を明らかにして、「核抑止力」による安全保障ではなく、平和と非核の日本、核兵器廃絶による安全保障とその展望を考える分科会でした。

分科会では、自治労連副委員長の「核廃絶ヒロシマアピール」や「自治体協議会の取り組み」に関する発言、港湾管理労組委員長の「核搭載艦船の寄港を許さず民間港の軍事利用をさせ

ない取り組み」に関する発言、同じく港と空港の平和を守る会の「軍事利用ゆるさない運動の前進をめざして」、さらにある県原水協の「核の傘から離脱し、非核の日本をめざすために」事選挙の報告とメッセージは熱いものがありました。

分科会発言を通じて、①各自治体の役割は大きく、非核宣言は積み上げが大切であり、それは平和教育に大きな影響も与えている、②新防衛構想は専守防衛からの変質が図られており、注意を要する、③過去の核実験の影響を受けて我々は何時でも被爆者たりうる。被爆の物理学的知識はこれからも必要であり、忘れてはならない、④5 年に一度、国連行動をすることもいが、その他の年は、そのエネルギーを日本政府に向けるべき、等の感想をもちました。

最後に助言者から、①核密約は今も生きています。私は 20 分くらい歩いて分科会 6 「核の傘」から離脱し、非核日本をめざすために、に実行させる、③各自治体で取り組む、④米軍艦船の港湾利用に反対することは、米軍再編を止めることになる、等の発言がありました。

夕方、全体集会Ⅱがアルカスホールで開かれました。ここでは長崎原爆被災協会長・谷口稜峰さんの「人間が人間として生きていくためには、地球上に一発たりとも核兵器を残してはなりません。私は核兵器がこの世からなくなるのを

見届けなければ、安心して死ねません。長崎を最後の被爆地とするため。私を最後の被爆者とするため」の訴えが強く心に迫りました。

3日目は自衛隊病院に隣接する佐世保公園で集会を開き、中心街をピースパレードをして、解散となりました。そして5日(日)夕方の便で小松に向かいました。

今回私は非核・石川の会の代表として参加し、貴重な体験をすることができました。この経験を今後に生かす決意です。ありがとうございました。

非核・石川の会ニュース編集委員会を開催 ニュースが変わります

第3回常任世話人会で非核・石川の会ニュース編集委員会を設け、個人編集から集団編集にする提案があり森昭事務局長、川本浩平、松井和夫、永山孝一を編集委員に任命しました。12月9日森昭事務局長他3名が集まり、新しいニュース発行体制と編集委員会のあり方を討議しました。

1988年8月10日非核・石川の会結成総会、1989年8月1日非核・石川の会ニュース第1号が発行されました。

最初の1号～30号は黒田隆一事務局員・後藤場所・福井県教育センター

○講師：原水爆禁止世界大会国際宣言起草委員、原水協担当常任理事・川田忠明さん
○演題：「2010年NPT再検討会議後の情勢と今後の展望」
○参加費：約1500円（資料代、自家用車に分乗参加の場合のガソリン代、高速道路代、駐車料）
○申し込み：森昭事務局長

新規1月発行の150号（12月・1月合併号）より毎号の編集会議の方針を基に編集委員

が作業を分担して発行していきます。

皆さんの身近なところの非核・平和の情報を聞きしながら、中学生のお子様を交えてお茶の間で話題に出来るような紙面を心がけます。

これまでの国内外の非核・平和の運動の紹介や解説に加え詩やエッセイ、マンガ、写真など文化的な新しい企画が入るような紙面に、時間はかかりますが努めていきます。

先ず紙面構成が変わりました。「みんなでつくる非核・石川の会ニュース」、みなさんの応援よろしくお願ひします。

（非核の政府を求める石川の会常任世話人会）

※事務局からのお知らせ

①日本平和大会に松井和夫さんを派遣しました。その報告は前述の掲載の通りです。

②ニュース149号発表以後の寄付は塩谷道子さん、西野司典さんです。昨年末現在、21名の方より54500円いただいております。感謝申し上げます。

③先月の日米共同訓練の報告は、すみませんが紙面の都合で次回にさせていただきます。

④Freeml（フリー・エムエル）というサイトでこの会のメーリングリストを作成しました。データの共有や情報交換に利用したいと考えています。参加ご希望の方は事務局まで。

☎・FAX076・252・1459まで